

共働きの家庭などが増加する中、祖父母による孫育てを考えるイベント「『孫育てのツボ』フェスタ」(毎日新聞社主催)が11月24日、大阪市北区の阪急百貨店うめだ本店9階の阪急うめだホールで開催された。講演は、NPO法人「孫育て・ニッポン」理事長の榎田明子さんが「ご存知ですか? 子育ての新常識」▽NPO法人「エガリテ大手前」代表の古久保俊嗣さんが「寄席風セミナー」祖父母の役割」▽出張親子フォト撮影「ママトリマス」代表の石川ひろこさんが「孫フォト、ちょっとのコツで大変身」▽NPO法人「ファザリング・ジャパン関西」代表理事の和田憲明さんが「現代あそびと伝承あそび」祖父母から伝えられること」――の各タイトルで、最近の孫育ての事情や注意点などを、それぞれの立場から分かりやすく説明。会場には、子どもの発育や家族生活に関連した団体や企業のブースが開設された。参加者は関心のあるブースで熱心に質問をしたり、体験コーナーを楽しんだりしていた。

【中川博史】

## 「孫育てのツボ」フェスタ

毎 日 新 聞

2014年(平成26年)12月21日(日)



NPO法人  
「エガリテ大手前」代表  
古久保 俊嗣さん

◇寄席風セミナー「祖父母の役割」

## 共稼ぎサポート「ソフリエ」

者や子育ての現役世代を助けられるか? 共稼ぎのサポートです。  
私たちのNPOでは、おじいちゃんを対象にした「ソフ(祖父)リエ資格」講座というものをやっていて、1日講習を受けてもらい、認定資格書を出しています。高度成長時代のモータリゼーションの皆さんですから「明日から孫育てをする」と言っても、まず信用

の孫の様子を聞き、注意事項を確認します。お父さんやお母さんを送り出したら、炊事、洗濯、掃除をして、孫と一緒に昼寝です。散歩や買い物したら夕食、お風呂の準備。仕事から帰ってきたのを迎えたいなら、その日の様子を報告です。そして「また明日ね」と言って帰ります。夕食は、2人分を余分に作っておきます。奥さんとの晩ご飯用です。

今日、集まっている皆さんは、団塊の世代前後だろうと思います。社会の常識を乗り越え、新しい考え方を作り上げてきた方々です。「十分に働いたから引退」と言わずに、もう一度、社会を改革してもらいたいのです。何より元気です。その体力は、期待されているんです。

バジルは料理を引き立てるハーブですが、自分自身は主

張りません。周りの素材のうまみを引き出すんです。皆さんにお願いしたいのは、自分がしゃしゃり出るのではなく、周りを引き立たせるバジル革命です。これは、ババ・ジジ・ガンバル革命とも言います。では、何をすれば、若

されません。「子育て経験がない」というイメージが定着しています。だから、認定資格書を見せて「少しだけやってみる」と言って始めてみましょう。

まず朝、娘や息子の家に行き、その前の晩から今朝まで

独居老人のことが社会問題になっていますが、妻を亡くした男性の余命は5年と言われていきます。逆に女性は15年。夫は生活力がないからです。ソフリエになると生活力がアップしますので、ぜひ挑戦してください。